

会議名称	令和8年度 第1回杉並区地域自立支援協議会
日時	令和8年6月4日(木) 14:00~16:00
場所	ウェルファーム杉並4階 共用会議室1・2
<p><出席委員> ◎相川章子委員、木津石生委員、齋藤聡委員、吉田誠委員、小林広之委員、氷見真敏委員、市倉由佳委員、米山拓也委員、新井陽子委員、野瀬千亜紀委員、藤巻鉄士委員、○若山大地委員、修理美加沙委員、早野節子委員、細貝長武委員、厚地朋子委員、小倉邦昭委員、河津利恵子委員、池部典子委員、北田祐果委員(◎会長 ○副会長)</p> <p><欠席委員> 田邊大樹委員、鈴木督委員、大島茂則委員、相田里香委員、藤井志乃委員、継仁委員、市瀬佳子委員</p> <p><傍聴> 4名(区民2名、相談支援専門員現任研修受講者2名)</p> <p><事務局> 保健福祉部長：福原善之、障害者施策課長：江川志穂、障害児支援担当課長：矢光美保、障害者施設支援課長：松下美穂子、障害者施策課：齋藤美紀、石場幸雄、永沢文子、田邊信広、山本千佳、松岡沙紀、障害者施設支援課：酒井美訓</p>	
<p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会・区挨拶 2 会長挨拶 3 新規委員・事務局紹介 4 杉並区障害者施策推進計画の改定について <ol style="list-style-type: none"> (1)地域生活に関する調査(障害者基礎調査)に係る報告 (2)「杉並区障害者施策推進計画」の改定に向けた取組について 5 各部会報告 6 グループ討議 「障害のある方の“日常”から考える居場所とつながり」 7 その他(連絡事項) <ul style="list-style-type: none"> ・トークライブ実行委員の募集 ・本会年間スケジュール確認 <p><配布資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 資料1 令和8年度第10期杉並区地域自立支援協議会委員名簿 資料2-1 地域生活に関する調査(障害者基礎調査)の結果について 資料2-2 杉並区障害者施策推進計画の改定に向けて 資料3 令和8年度部会活動報告(第1回本会開催時点) 資料4 令和8年度第1回本会グループワーク説明資料 資料5 令和8年度杉並区地域自立支援協議会年間スケジュール 	
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会・区挨拶 ○保健福祉部長挨拶	

この4月から保健福祉部長となりました福原です。開会に当たりましてご挨拶申し上げます。本年は、この後説明させていただきますが、杉並区障害者施策推進計画の改定を行う年となっています。併せて、上位計画であり区の全体計画でもあります総合計画実行計画の改定の年にもあたっています。私はこの4月から保健福祉部長になりましたが、以前は障害者施策課の係長級を6年程度、障害者生活支援課長を1年間務めており、直近の3年間は施設マネジメント担当部長をしていました。その中で計画の策定をもちろん経験してまいりましたが、これまでは行政のほうで考えて計画をつくるという流れでした。しかし、それではなかなか区民の方や実際に利用されている方の声を十分にお聞きすることができず、計画に反映しきれないことがありました。実際にやってみると、現場の実態とは少し違うのではないかとということもいろいろありました。そうした経験から、計画を策定する前の段階でしっかりとお話をお聞きし、実態も調査をした上で、どのような取組が必要かを明確化していこうという形に改め、そうした取組を行ってきました。障害者の分野においては、今日の皆さんもまさにそうですが、地域自立支援協議会をはじめ、いろいろなところで計画を策定する前の段階から、行政だけではなく、障害当事者の方、支援者の方、また事業者の方々それぞれの皆さんのお力をお借りしながら計画をつくっていくということが当たり前のようにやられてきたわけですが、やっとそこに他の分野も少し追いついてきたのかなという状況にあると思っています。

本日は、日常から考える居場所とつながりというテーマでグループワークをしてお聞きしていますので、皆さんのお話もしっかりと受け止めさせていただき、今後につなげてまいりたいと思っています。本日はよろしくお願いいいたします。(保健福祉部長 福原)

○障害者施策課長挨拶

3月までは障害者施設支援課でお世話になっていましたが、4月から障害者施策課長になりました江川志穂です。どうぞよろしくお願いいいたします。昨年度は、皆さんの手元にお配りした緑の冊子のとおり、調査にご協力いただきありがとうございます。これを計画策定に役立てていきたいと思っていますので、皆さんからも活発なご意見をいただければと思っています。これまでもこの会に参加していて、皆さんのご意見が本当に大事だということを身をもって体験しています。本日も楽しみにしていますので、ぜひご意見を聞かせてください。よろしくお願いいいたします。(障害者施策課長 江川)

○障害児支援担当課長挨拶

障害児支援担当課長の矢光です。昨年度までは障害者施策課長がこのポストを兼務していましたが、4月から私が着任しました。保健福祉部は実は初めてですが、いろいろと勉強しながら、皆様にも教えていただきながら頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいいたします。(障害児支援担当課長 矢光)

○障害者施設支援課長挨拶

障害者施設支援課長になりました松下美穂子です。江川課長の後任ということで、よろしくお願いいいたします。お顔を見渡すと、私は久しぶりの保健福祉部ですが、知った顔もいてほっとするような、前にお会いしたときは違う分野だったなとちょっと緊張するような、そんな方々がたくさんいらっしゃって、懐かしく嬉しく思っています。ぜひ皆様からいろいろなご意見を伺ったり、一緒に考えていながら、この障害者分野でよいものをつくっていけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いいいたします。(障害者施設支援課長 松下)

2 会長挨拶

私は埼玉県立大学から参りました相川章子と申します。よろしくお願いいいたします。今回、私も計画部会に関わらせていただいて調査をさせていただいています。たくさんの自由記述もありますが、調査は比較的客観的なデータが中心です。これはこれでもとても大事で、数字で表れていると思いますが、やはり一人一人のそこに息づく生の声も合わせて、セットにして届けていくことが施策につながっていくのだと思っています。まさにこの自立支援協議会は、皆さんそれぞれ現場で、もしく

は当事者として、地域の中で暮らしていらっしゃる感覚をたくさんお持ちだと思いますので、主観をたくさんここに持ち寄っていただいて、グループの中で対話をしながら、自分の主観を出し合っただけでもいいなと思っています。今日は居場所ということがテーマで、居場所って何だろうというところから話になるかもしれませんが、私にとっての居場所はというところからのほうが話しやすいかもしれませんし、いろいろな主観を皆さんのテーブルの上に出し合っただけでもいいなと思っています。どうぞよろしく願いいたします。(相川会長)

3 新規委員・事務局紹介

- ⇒①資料1に基づき、新規委員及び事務局の紹介
- ②佐藤委員(いたる相談室)の退任報告
- ③障害者施策課事業推進係(江崎係長)のグループ討議参加について紹介

4 杉並区障害者施策推進計画の改定について

- (1)地域生活に関する調査(障害者基礎調査)に係る報告
- (2)「杉並区障害者施策推進計画」の改定に向けた取組について
 - ⇒資料2-1、2-2に基づき障害者施策課計画調整担当より説明
 - ⇒質疑なし

5 各部会報告

○相談支援部会

相談支援事業所やどり木の修理です。相談支援部会は、協議会と同様に2年で1期として運営しています。前期の1年間では、個別事例から見る地域課題の抽出や個別課題の考え方について主に議論してきました。地域課題というものは元々あるわけではないので、皆さんが日々の支援の中でお持ちの課題がどのように地域課題になっていくのかを、シートを作成するなどして整理してきました。今期は、そうした地域課題の抽出方法から、それをどのように解決に結びつけていくのか、こういった形で地域に共有していくのかを、実際にどのような会議体で検討したらよいかという具体例も考えながら検討を進めてまいりたいと思います。杉並区の中で個別事例から地域への課題抽出がなされ、それが解決に結びついていく仕組みづくりを進めていきたいと思っています。(修理委員)

○地域移行促進部会

支援センターすだちの小倉です。地域移行促進部会は、精神障害者の方の退院促進をテーマにしており、今期は居住と支援体制について話し合いを進めております。前期(昨年度)は、杉並区の居住支援協議会や居住支援法人の方に来ていただき、事業内容の説明を受けながら、杉並区としてどういったことに取り組んでいけるかを部会の中で話し合ってきました。今期は、そうした経過を踏まえ、より地域の中でのつながりや理解促進を進めていきたいと考えています。具体的には、地域にある不動産会社の方たちと懇談会という形で、部会の中だけにとどまらず相互理解・つながりをつくっていければと考えています。第2回で懇談会を予定しており、第1回ではそれに向けた準備を部会の中で進めていく予定です。(小倉委員)

○高齢・障害連携部会

キラキラステーションの細貝です。今年度は前年度から引き続き、3本柱を成果物としてまとめるという段階に入ってきています。一つ目は、移行期のリーフレットの作成です。今年度中につくり上げることを目指しています。二つ目は、デイサービスを利用している当事者の声を伝え、事業者にわかりやすい案内を作成するということです。三つ目は、高齢・障害それぞれの施設に高齢障害者の支援を考える機会をつくるとともに、家族への働きかけを行うということです。

一つ目のリーフレットについては、6月17日に第1回部会を行い、グループワークでより詰めた意見を伺うことになっています。また、実際にケア24 阿佐ヶ谷に行って、ケアマネ連絡会でリーフレッ

トについてご意見を伺い、貴重なご意見をいただくといった活動もしています。今後もケア 24 の圏域の会議等に参加し、ケアマネさんからの意見を伺っていく予定です。(細貝委員)

○地域生活支援拠点部会

いたる相談室の厚地です。地域生活支援拠点部会は、昨年度から知的障害の方の施設入所からの地域移行に向けたワーキンググループと、緊急時対応計画に沿った緊急時のワーキンググループの二つに分かれて活動しています。今年度も引き続き二つのグループで活動し、最後にお互いの活動を報告し合っ、次につなげていくことを年間の計画としています。

知的のワーキンググループでは、昨年度から施設に入所されている知的障害の方の地域移行に関するプロジェクトチームをつくっており、第1回ではその目的や達成目標の再共有を行う予定です。今後は、地域の既存施設を活用した地域移行のモデルケースづくりに取り組んでいきます。ワーキンググループでは「杉並モデル」と呼んでいますが、実際に動きながら、課題の整理や既存資源の活用方法について意見交換を行っていく予定です。

緊急時のワーキンググループでは、緊急時対応のショートステイ受入れを行っている施設の事例をもとに検証を行い、緊急時対応計画の事業の実効性等について議論していく予定です。今後は、これまでの緊急時対応事業の事例も踏まえつつ、事業所間の連携体制や役割分担を整理し、事業の実効性を高めていく方策を検討するとともに、サービスマップ等を用いた見える化により、緊急時対応事業の周知を一層強化していきたいと考えています。(厚地委員)

○こども部会

こども部会の事務局をしています、こども発達センターの石場です。前回の部会で示された課題は、教育と福祉の分野の連携の難しさ、分野を超えた横のつながりや情報共有の難しさ、相談先の分かりにくさという三つです。これらの課題に対して、地域の限られた体制の中で実現可能な連携の工夫とはどういうことがあるのかを、個別の事例を通して地域の皆さんと一緒に考え、具体的な連携体制の在り方を検討することとしています。また、相談や情報提供の仕方について、改善できるところはどんなところがあるのか、どういった方向を目指していくのかについて重点的に取り組む方針としています。(事務局・石場)

⇒質疑なし

6 グループ討議

「障害のある方の“日常”から考える居場所とつながり」

【グループ討議説明】

⇒資料4のとおり説明

前回(昨年度第4回)の協議会での話し合いを簡単に振り返らせていただきます。資料4をご覧ください。前回のテーマは「居場所づくりの検討における当事者の意見の反映」ということで、皆さんからいろいろなご意見をいただきました。事務局のほうで三つにまとめています。一つ目は、当事者の意見の反映方法についてです。今ある既存の取組を活用していくことや、ご本人に関わっている職員から声を吸い上げていくといったご意見がありました。二つ目は、居場所のあり方について、日常の利用している場所やいろいろな交流の場など、様々なご意見をいただきました。三つ目は、前回、社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターにご参加いただいたことを受けて、すまいると一緒に新しいサロンを立ち上げたらよいのではないかという、実際に居場所をつくるというご意見もいただきました。こうした意見を踏まえ、本日のグループワークのテーマを「障害のある方の“日常”から考える居場所とつながり」と設定させていただいています。

今日は、障害のある方が日々どんなところで、どのように過ごしているのかを持ち寄っていただき、そこから見えてくる居場所やつながりについて、皆さんで意見交換を深めていただければと思います。当事者の皆さんもいらっしゃいますので、ここでこんなことをしていると安心する

といったご意見や、決まった場所でなくても喫茶店やスーパーなど地域にあるいろいろな資源でこんなふうに過ごしているというところを、まずは出し合っただければと思います。

進め方ですが、資料に3ステップと書かせていただいています。ステップ1では、どんなところで過ごしているかを付箋に書き出していただきます。杉並の地図も置いてありますので、出てきた居場所を地図に貼っていただくと見える化できるかと思います。ステップ2では、出していただいた内容の中から、これはいいね、これは大事だねといったポイントを出していただきます。ステップ3では、今年度協議会としてどんなことに取り組んでいけるかというアイデアをいただき、今後につなげていきたいと思っています。

グループワークに入る前に、木津委員より、活動されている団体でのポッドキャストの音声をご用意いただいたとのことですので、ご紹介いただきます。(事務局・齋藤)

フラットという団体で、居場所とつながりを障害当事者からつくっていくというコンセプトで活動しています。その一環で、北田委員ほか車いすのメンバーも含めて、障害者の日常を発信しようということで、「会議の始まり5分前」というタイトルでポッドキャストを始めましたので、お聞きいただきたいと思います。

～ポッドキャスト音声再生～

障害のある当事者の日常というのはどうしても見えにくいものかなと思いますが、それを少しでも日常会話の中からはじみ出るものがあればいいかなと思い、作成しています。今回のグループワークで少しでも活用していただけると嬉しいです。(木津委員)

【グループ発表】

○A グループ

A グループでは、居場所の範囲が人によって違うという点が気づきとして挙げられました。例えば、平日は職場で過ごし、休みの日は近所のホームセンターや買い物に行く方もいれば、講演会などで全国を回るなど、仕事や活動の場が広い方もおり、生活スタイルはさまざまでした。その中で、行動範囲の広さではなく、自分の性格や生活の目的に合った生活ができていることが大事ではないかという意見が出ました。また、居場所は場所そのものだけでなく、そこにいる人や周囲の理解によって感じ方や快適さが変わるという話がありました。

それから私の話ですが、私は今三つ目の会社で働いており、現在は在宅で働かせてもらっていて、それがとても快適です。それまでの二つの会社ではオフィスに出社していましたが、人間関係が大変だったり、障害のことを認めてもらうのに多くのエネルギーが必要だったりして、ストレスを感じる事が多くありました。そうした話を共有する中で、居場所そのものも大事ですが、その場所にいる人や理解によって、感じ方や快適さが変わるということに改めて感じました。(北田委員)

○B グループ

B グループでは、片麻痺のある方から、ふらっと入るお店の中で居心地が良い場所とそうでない場所があるという話がありました。さりげなく気遣いしてくれるお店は居心地が良く、そのような配慮があることが重要だという意見がありました。また、自分は麻痺があるため周囲に気づいてもらいやすく理解してもらいやすいが、見えにくい障害の場合には難しいところがあるのではないかという話もありました。そのほかにも、仕事や作業所の後に立ち寄るなじみのある場所を持っている人が多く、そういった場所で過ごす時間が大切であるという意見が出ました。

さらに、地域には実際に参加しやすい場所があるものの、公に知られていないものもあり、そうした場所については利用につながりにくい現状があるという話がありました。そのため、啓発の取組や支援者の関わり方によって利用しやすさが変わるのではないかという意見や、支援者の中にも温度差があるため、その差を埋めていくことが必要ではないかという話がありました。

また、同じ気持ちの人たちが集まる場所と、多様な人がいる場所の中で過ごしやすい場所をつく

っていくという、二つの性質があるのではないかという意見が出ました。(事務局・石場)

OC グループ

C グループでは、具体的な場所の話と、役割としての居場所という視点の2つに分かれて話がありました。まず具体的な場所については、フィットネスジムや区立施設(地域区民センター、図書館のカフェ等)といった場所が挙げられました。フィットネスジムについては、意外と障害理解があり、状況に応じて利用しやすいように調整してもらえるとといった話もありました。

また、居場所には「役割としての居場所」という側面もあるのではないかという話がありました。イベントの企画や運営に関わる方もいれば、人前で話すことが苦手な方もいるため、それぞれの特性に応じた関わり方ができることが重要ではないかという意見がありました。具体的には、イベントの裏方的な役割など、できる範囲で関わることで、自分の居場所として感じられるのではないかということでした。また、役割を実際に担ってみることで、これまで経験していなかったことに挑戦する機会にもなり、その中で新たな可能性を見つけていくこともできるのではないかという意見がありました。さらに、目標を持って取り組む活動(例えばマラソンなど)についても話があり、共通の目標に向かってチームで取り組むことで、居場所としてのつながりが生まれるのではないかという意見が出ました。

そのほか、居場所としては、自由に利用できるオープンスペースについても話がありました。こうした場所は、特に会話を求められるわけではなく、物理的にそこに行くだけでもよく、フラットな形で過ごせる場所として重要ではないかという意見がありました。(事務局・田邊)

OD グループ

D グループでは、最も盛り上がった話として、スーパーに併設されたイートインスペースやカフェ、ハンバーガー店など、日常的な身近な場所についての意見が出ました。これらの場所については、利用者からも「居心地の良さがある」という声があり、その理由としては、店員が挨拶をしてくれることや、周りでパンが焼き上がったり、食材の準備が行われていたりするなど、人の動きが感じられる環境であること、音楽が流れていることなどが挙げられました。こうした要素が重なることで、居心地の良さにつながっているのではないかという意見がありました。

また、オンラインゲームやオープンチャットなど、インターネット上のやり取りを居場所に行っている人もいるという話がありました。自宅にいても孤立しているわけではなく、誰かとつながっていることで居場所感を持っているという点から、新しい形の居場所ではないかという意見が出ました。

さらに、一般の飲食店で店員と話をしながら悩み事を聞いてもらうという関わり方もあるという話がありました。その中で、専門職は課題を解決しようとする傾向がある一方で、利用者は「話を聞いてほしい」と感じている場合もあるため、店員とのやり取りの中で話を聞いてもらい、それだけで満足するという関係もあることが共有されました。こうした話を踏まえ、支援においても「聞いてもらうこと」そのものが居場所につながる重要な要素であるという認識が共有されました。(藤巻委員)

OE グループ

E グループでは、皆さんのグループと同様に、ハード面とソフト面の話が多く出ていたと思います。場所としては、体育館や図書館などの公共施設が挙げられました。また、形としては、ユニバーサルタイムのような取組や、地域の取組についての話も出ました。そうした中で、地域の中にある既存の場が、どのように受け入れられていくかという点について意見がありました。もともと公共施設は、さまざまな人が利用できるようなつくりになっているはずですが、実際には障害のある人にとって使いにくい場面があるのではないかという話がありました。また、ユニバーサルタイムのように、障害のある人だけの時間を設ける取組についても、本来は公共の場である以上、誰もが一緒に利用できるのではないかという視点も提示されました。こうしたことから、現在の形を見直すことが、インクルーシブなあり方を考える上での一つのきっかけになるのではないかという意見がありました。さらに、誰でも利用しやすいようにハードルを下げる工夫をしていくことが、居場所づくり

のヒントになるのではないかという話がありました。

そのほか、具体的な場所として、地域の活動の場に関する話も出ました。また、SNS などの目に見えないコミュニティについての話もあり、目的を持って集まることで会話がしやすくなり、関係が築きやすくなるという意見がありました。一方で、SNS など人を介さないつながりについては、安全性やリスクの側面もあるのではないかという意見も出ました。

最後に、仕事と自宅の往復だけではなく、心が休まる場所を持つことが重要であり、それが居場所ではないかという意見が共有されました。(修理委員)

7 その他(連絡事項)

・トークライブ実行委員の募集

今年度もこの協議会の活動や障害のある方の生活を区民の皆さんに伝える機会を設けたいと思っています。来月から実行委員会を開催して企画していく予定です。詳細は後日メールで委員の皆さんにお送りしますが、実行委員は協議会の委員だけではなく一般の方でも大丈夫ですので、ご興味のある方がいらっしゃいましたら併せてお知らせいただければと思います。(事務局・山本)

・本会年間スケジュール確認

⇒資料5のとおり

以 上